京都教区時報

Home Page http：//www.kyoto.catholic.jp　4345

京都教区広報委員会
（編集長　村上透磨）
京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075－211－3025
FAX 075－211－3041
honbu@kyoto.catholic.jp

2021年　司教年頭書簡を受けて

第6回　こころをひらいて

私の住んでいる街は、コロナ時代の以前と比べ夜は真っ暗になり、極端に人通りが減ります。営業時間が短縮されていることや閉店した店があるので、街灯だけが明るいと感じる時があります。そして緊急事態宣言中は、このような状態が顕著になりました。どのように考えても、倒産や失業で生活が出来なくなる人々は増えていますし、病床がひっ迫して通常の医療にも影響が出るようになり、毎日感染者数と重傷者数と死亡者数が報道されています。

私は基礎疾患を持っていますので定期的に通院しており、病院の緊張状態が伝わってきます。医師から、基礎疾患の人がこの病気にかかるとあっという間に重症化して死に至るので、普通の人以上に気を付けて、完全なコントロールをするようにと伝えられました。

しかし去年の3月ごろ、肺炎球菌によって肺炎になり、最初は隔離された部屋で熱にうなされていました。何故病院がこんなに私を警戒しているのか分からなかったのですが、PCR検査を受けて陰性がわかった時、ようやく医師と看護師が説明してくれました。また入院中は、私が関わっている聖愛幼稚園の先生たちに大変お世話になりました。

このようなことがあったので、去年の第1回目の緊急事態宣言の時には怖くて外に出られなくなり、二重のマスクをつけて、買い物と病院の時だけ外に出かけました。そして同時に、他人と神様に心を閉ざすということが心の中で起こってしまいました。電話で話が出来る人は数人だけになり、他人と関わりたくないし祈りたくないという状況でした。しかし、これは全て私の側から見た主観的な話であり、神様は神様のご都合で動かれました。私の住む司祭館は、園庭の目の前にあります。ある日の午後、病院帰りに年長組の女子に声を掛けられました。

「最近見ないけどどうしたの？」

「ごめんなさい。今度遊ぶようにするし…」

この話って、聖書の中の主の復活のところで、閉じこもっていた弟子たちの真ん中にイエスが立って、「あなたがたに平和」という場面に似ていませんか？　私は似ていると思っておきます。

山城ブロック担当司祭
福岡一穂

本日の幼稚園の靴箱です。「神の国はこのような人々のものです」と言われたことを体験させてくださって感謝しています。

7
2021

ありがとう ボアベール神父様

日本で60年近い宣教師としてのお仕事を終え、６月16日にカナダに帰国されるヴィアトール会司祭、イブ・ボアベール神父様。今年のお誕生日で83歳になられる神父様の人生を振り返っていただきました。

（５月25日取材）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

出身はカナダ

私は、１９３８年７月14日、カナダのモントリオールに近い、ケベック州のテルボンヌで生まれました。そのころは人口５千人ぐらいの小さな町でしたが、町の教会の主日のミサは、一日に７回もありました。言語はフランス語です。

父は建築家、母は料理の上手な人。良く祈る両親で、毎日ロザリオを祈り、いつも召し出しの祈りをしていました。きょうだいは、兄と、弟が２人と妹。２年前に帰天した兄もヴィアトール会の宣教師でした。

夢は宣教師になってアフリカへ

８歳の時、ミサに来られていた宣教師の司祭に会ってから、宣教師になってアフリカに行きたいという夢を持つようになりました。中学校の時の大好きな担任の先生が、ヴィアトール会のブラザー（修道士）だったので、ヴィアトール会に入りたいと思うようになりました。ドンボスコの本にも惹かれ、サレジオ会も考えましたが、大学を卒業して、ヴィアトール会に入ることを決めました。両親は、召し出しの祈りが聞き入れられたと、とても喜んでくれました。（兄は私よりもあとにヴィアトール会に入会しました。）

ブラザーになった私は、24歳の時、修道会の管区長から、「日本へ行きなさい」という命令を受けました。宣教師としてアフリカに行きたいという望みを持ち続けていましたし、日本語は難しいと聞いていたので戸惑いましたが、神のみこころだと思い、５分悩んで日本行きを受け入れました。

北白川教会の横にある修道院でお話を伺いました

アフリカではなく、日本へ

１９６２年８月26日、羽田空港に着いた時、ちょうど台風が来ていて、大雨と暴風でびっくりしました。しかし翌日は快晴、まだ新幹線のない時代、京都に向かう電車の中から、とてもきれいな田んぼの風景が見え、感激したことを覚えています。

京都では、まず西陣教会の近くにあった日本語学校に２年間通いました。

その後、ヴィアトール会の経営する洛星中学・高等学校で理科の助手をしたり、寮の舎監をしたりしましたが、やはり日本語は難しく、教えることは素晴らしいけれど、私にとっては大変でした。

修道士から司祭への転身

学生時代、ブラザーの先生に教えてもらうことが多かったので、司祭ではなく、当たり前のようにブラザーになりました。

１９６９年１月、中学１年のある生徒から２度も、「先生、神父さんになってほしい」と言われました。ナドウ神父さんに話をしたら、「それは神の呼びかけだよ」と言われました。それで、その年

の4月から東京のイエズス会の神学校に特別に入れてもらい、4年間、司祭になるために勉強をしました。

そして1974年、洛星の聖堂で、古屋司教様によって司祭叙階の恵みを受けました。

司祭として

その後、28年間、北白川教会の主任司祭として、多くの信徒の皆さんに助けられ、支えられて過ごしました。以前の東ブロックや、洛北ブロックの担当司祭として、京都市内の教会でのミサや入門講座、聖書の講座などを通して、北白川教会の信徒だけでなく、他の教会の多くの方々とかかわることができ、幸せでした。

北白川教会では結婚講座にも力を入れ、今までに約1400組のカップルの結婚式を司式しました。今でも、手紙や家族の写真を送ってくださる方もたくさんおられます。

私が料理やお菓子作りが大好きなのは、母を見ていたからです。今でも料理はします。うまくできると嬉しいし、みんなが喜んでくれるともっと嬉しい。

もともと心臓の病気があったのですが、日本の病院で3度も手術をして、おかげさまで今はとても元気になりました。

カナダへの帰国

2016年、北白川教会の主任司祭を、ウイリアム神父さんに引き継ぎました。ウイリアム神父さんは、私が宣教師として行きたかったアフリカのご出身。不思議な神の計らいを感じます。

私より半年早く1961年に来日されていたブラザーベルナルドは、今年90歳になられました。今まで彼と共に働けたのは、とても心強いことでした。6月16日、一緒にカナダに帰国します。モントリオールの北70キロぐらいのところにあるジョリエットという町の大きな修道院が、帰国した後の私たちの住まいになります。

昔は主日のミサが一日に7回もあったふるさとの教会も、今では1回しかありません。いろいろなことが変わりましたが、妹が近くの町にいて、私の帰国をとても楽しみにしてくれていますし、弟たちも元気なので、会えるのが楽しみです。

皆さんのために祈っています

私は日本語が下手でしたが、支えてくださった多くの人のおかげで、こんなに長い間、日本で働くことができました。私は愛されているよ。

京都の皆さんの親切や優しさは忘れられません。大きな喜びで胸はいっぱいです。皆さんに心から感謝したいと思っています。

梅雨の中休みの快晴、修道院のお庭で

教区の神父様方にも感謝しています。神から遣わされた宣教師としてがんばってほしい。そして、召し出しのためにも祈ります。

京都教区の皆さん方のために、カナダからいつも祈っています。

ありがとう。さようなら。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

過去を振り返りながら、笑顔でお話してくださったボアベール神父様。信徒のお医者様のおかげで、ワクチン接種も京都で終えてから帰国されるそうです。

神父様の京都での長い間のお働きに、心より感謝いたします。

ふるさとで、どうぞお元気でお過ごしくださいませ。私たちも神父様とブラザーのために、お祈りしています。

広報委員　原山裕子

東日本大震災・大船渡ベース支援終了のお知らせ

皆様には、東日本大震災・大船渡ベース支援のために、お祈りと多額の献金をお寄せいただきまして、心よりお礼申し上げます。今年で震災10年ということで、大阪教会管区が担当してきました大船渡ベースと南三陸ベースへの支援を、2021年３月をもって終了いたしました。今後、南三陸ベースは一般社団法人となり、大船渡ベースは支援金をもとに、今後の運営について検討されていくこととなりました。

京都教区としては、2014年４月末日をもって、募金の募集を終了させていただきました。今まで、京都教区の皆様がお寄せくださった献金は51,989,323円に上り、その中で、ボランティアや支援会議のための経費として、5,049,559円を使わせていただき、40,700,000円は直接に大船渡ベースに送金させていただきました。

残金の6,239,764円は、2014年11月20日のお手紙でお知らせいたしました通り、近年、頻発している自然災害の支援のために使わせていただくこととといたしました。

ここにお礼とご報告をさせていただきます。なお、大船渡ベースへのボランティアは、今まで通り受け付けております。既定の条件を満たせば、教区から補助をさせていただきたいと思いますので、お申し出ください。よろしくお願いいたします。

2021年７月１日

本部事務局長　**北村　善朗**（担当：清冨）

神の正義といつくしみ 15

聖書講座シリーズ

□ すすめのことば……大塚 喜直（京都司教区司教）
□ はじめに……村上 透磨（京都司教区司祭）
□ ホセア書……澤田 豊成（聖パウロ修道会司祭）
□ ヨブ記……一場　修（マリスト会司祭）
□ イエスのたとえ話……白浜　満（広島司教区司教）
□ イエスのいやし……西　経一（神言修道会司祭）
□ イエスの派遣……北村 善朗（京都司教区司祭）
□ イエス・キリスト、神のいつくしみのみ顔…鈴木 信一（聖パウロ修道会司祭）

■定価：1,540 円（本体 1,400 円+税）■発行：サンパウロ ■発売：2021 年５月

京都司教区聖書委員会

■ 聖書委員会から、新刊が出ました。「聖書講座シリーズ」〈No.15〉です。「神のいつくしみは、わたしたちに対する神の責務なのです。神は責任を感じています。わたしたちの幸せを望み、わたしたちが幸福で、喜びと平和に満たされているのを見たいのです」（大勅書『いつくしみのみ顔』）と言われた教皇フランシスコの思いに応えて、６人の講師たちが神の愛を中心にし、旧約・新約聖書に描かれる「神の正義といつくしみ」を解説します。

お申込み、お問い合わせは　カトリック京都司教区聖書委員会まで　《割引価格にてお分けいたします》
■ TEL：075-366-6609　FAX：075-366-6679　■ E-Mail：seisho@kyoto.catholic.jp

トマのつぶやき

「自粛が自閉とならぬよう」

自粛、自粛と言われるものだから、素直に受けて二つの扉（門）に「才」をはめて閉じてしまえば、門には日（ひかり）も通らず、間は消え、中は暗闇か牢屋となるか。閉ざした部屋は密閉状態、窒息しそうになりそうです。するとたやすく自縛が起こり、自傷自爆もふつふつとして、人傷つける事件も起こし、暗い暗いと嘆きが始まる。得体の知れぬコロナの大軍。暗雲の様に垂れ込み始め、隙間が見えぬ閉ざされた中で「噂」も一緒に踊り始め、「嘘」がまことしやかに「拡散」しだす。ＳＮＳも有り難き（有ってはならない）かな…。

暗い文章になりました。ここで自分を開放せねばと思い、窓を開ければ、明るい光、涼風もまた頬そよがせてくれれば、解放（開放）感も生まれるでしょう。心を上げて、天を仰いで観想すれば、心は天に広がって祈り（心の詩）を生み出すのです。詩人が大自然をうたいあげれば、そよ風（霊）が光（愛）を伴い、目を開かせる。サルーテ（健康・救い）、皆さまにあれ。

広報委員会担当司祭　村上透磨

青年センター運営委員会

青年センターは、みなさんご存じの通り、「つなごうネットワーク　深めようコミュニケーション」をモットーに活動しております。教区の青年たちとつながりたいなあと思う仲間たちの活動を、バックアップしていきたいと思っています。でも、活動のバックアップをするよ、と受け身で待っていても、なかなか青年たちはつながれません。そこで、どのような活動をしていこうか、運営委員で集まって話し合いをしています。それが「運営委員会」です！

４月の運営委員会では、
- 新運営委員紹介
- 機関紙ジョバニ（現在はオンラインで発刊しています）について
- 教区時報「あんてな」の内容について
- 青年連絡協議会 http://catholicyouth.jp/報告
- 中学生会春合宿（オンライン）報告
- 春プロジェクト（新青年歓迎企画）

青年センターの
ＨＰも見てね！

について話し合いました。通常、運営委員会は色々な教会をお借りして行い、その教会の信者さんに青年センターについて知っていただいたり、青年たちとつながったりする活動も兼ねています。運営委員会はだれでもオブザーバーとして参加できるのですが、今はオンラインなのでそのようにはいきません。また今後、色々な教会に出かけていけることを楽しみにしています。ぜひみなさん、運営委員会をのぞいてください。お会いできることを楽しみにしています!!

青年センターあんてな

大塚司教の７月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の影響のため、スケジュールが変更される場合がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。

７月のお知らせ

教　　区

聖書委員会

オンライン聖書講座

「救い・いのち・喜び」

５～11月まで全12回配信

全講座を通しての申込は終了しましたが、単発での受講は可能です。

詳しくは京都教区のＨＰをご覧ください。問合せは聖書委員会まで。

・メール/seisho@kyoto.catholic.jp

・TEL/075(366)6609

広報委員会

お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区本部事務局宛

・メール/honbu@kyoto.catholic.jp

・Fax/075(366)6679

発信者のお名前を明記の上お寄せください。

※　９月号の原稿締切り日は７月19日㊊です。

ブロック

奈良ブロック

オンライン聖書講座（YouTube）

すべてのいのちを守るためⅡ

コロナ時代を生きる信仰(年頭書簡)

(全３回７～９月毎月１回)

講　師：大塚喜直司教

配信日：第１回 10日㊏

奈良ブロックＨＰからどなたでも視聴できます。

奈良ブロックHPはこちら

諸　団　体

京都カトリック混声合唱団

練　習：11日㊐ 14:00 洛星宗教研究館

24日㊏ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

現在活動休止中。再開時、団員には連絡します。

問合せ：075(951)4283 則武　隆

コーロ・チェレステ（女声コーラス）

練　習：８日㊍・22日㊍・29日㊍ 10:30

河原町教会２階楽廊

再開の場合は連絡網にて連絡します。

問合せ：075(701)3303 岡田久美

カトリック京都働く人の家（九条教会内）

定例会：11日㊐ 15:30～17:30

対　象：15歳～35歳の方　どなたでも

問合せ：090(8207)1831 瀧野正三郎

心のともしび　ラジオ番組案内

（全国34局で放送）

ＫＢＳ京都　㊊～㊎ 朝５:55

㊏ 朝５:15

ラジオ関西　㊊～㊎ 朝５:00

㊐ 朝６:05

７月のテーマ「慎ましく」

８月のお知らせ

正義と平和協議会

第14回　戦争と平和写真展

「沖縄・フクシマ・核（広島・長崎の記録）」

日　時：７日㊏ 15:00～20:00

（ミサ中止の場合は17:00まで）

８日㊐ ７:00～15:00

（ミサ中止の場合は10:00～15:00）

会　場：河原町教会 ヴィリオンホール

入場無料

問合せ：075(366)6609㊋㊍

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎（たけざき）裕子さんまでお申込みください。

Tel・Fax/079（431）8601